

再任用・再雇用職員・非常勤教員部ニュース

No.328
2020.01.15

東京都公立学校教職員組合（東京教組）

再任用・再雇用職員・非常勤教員部

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 2F

TEL. 03-5276-1311 FAX. 03-5276-1312

明けましておめでとうございます



「憲法9条」・「桜を見る会」を新成人に聞く 13日

2020年が明けました。年頭から、アメリカとイランの軍事的応酬があり、両国間の全面戦争へと発展するのではないかとの不安が世界に広がりました。このように緊迫した状況にもかかわらず、安倍内閣は、年末に閣議決定した自衛隊の「調査・研究」のための中東への長期派遣を予定通り行うとして、1月11日には、P3C哨戒機2機を出発させました。今回の派遣決定は、防衛省設置法に基づいているとはいえ、国会での議論も議決を経ず、閣議決定だけで進め

られています。文民統制の観点から大変問題があります。憲法をないがしろにした自衛隊の派遣は許されません。安倍首相は年頭所感で、「この国のかたちに関わる大きな改革を進めていく。その先にあるのが、憲法改正だ」と述べるなど相変わらず改憲に固執しています。今年は、安倍改憲発議を許さず、安倍首相を退陣に追い込むねずみ年にしましょう。

オリパラ観戦は誰のため？

東京都教育委員会は、「オリパラ教育の集大成として、レガシーを残す」として、2020東京オリンピック・パラリンピックへの児童・生徒の学校単位の観戦を2018年に決定し各学校に対して2度の意向調査を行いました。都が購入し配布するチケットは当初100万枚にのぼるとされていました。2018年の意向調査では、都内全ての区市町村（島嶼を除く）が観戦を希望しました。しかし、実際の引率を想定すると、子どもの健康と安全、教職員の負担に対する不安が高まり、一部の学年で辞退したり、辞退を検討したりしている小学校が多数出てきました。

酷暑による熱中症、公共交通機関の混雑と乗り換え、交通機関のトラブル、弁当や飲み物の持ち込み制限、飲食や休憩する場所の確保、暑さによる食中毒、ゲリラ豪雨等の風水害、体調不良の子の対応、引率に関わる教職員の負担、等々不安が尽きません。

昨年11月には、都内小学校長が個人名で新聞に「五輪 猛暑の学校観戦奨励に不安」と引率の不安を投稿しました。その内容は、「本校もオリパラ授業を実施し、世紀の祭典に向けて

雰囲気は盛り上がっている。全学校の競技観戦は素晴らしい企画だと思った。本校を含め市内の全小中学校が申し込んだ。しかし、猛暑が必至の上、移動手段は原則公共交通機関。100人超が満員電車を乗り継ぎ、2時間を超す移動となる。当日を想像すると、観戦の楽しさよりも緊急事態対応が思い浮かぶ。来夏の祭典の負のレガシーにならないよう、最大限の配慮を望む」というもので、引率責任者になる校長の当たり前の不安が表明されました。

都教委は「強制や動員ではなく、観戦希望は学校の判断」と説明していますが、学校が判断したのだから、責任は学校にある、という態度です。今回の観戦事業は、集大成にもレガシーにもならず、子どもにも教員にも「負の遺産」になりかねません。

確定申告 2月17日(月)～3月16日(月)
申告書類は、税務署で1月中旬から配布
国税庁のホームページからもダウンロード可

初めての方ご注意を！ 医療費10万円超の方も！

確定申告を2月17日から3月16日で行います。2019年1月以降年金支給が始まった方は、気をつけてください。申告する必要があります。申告の対象期間は2019年1月から12月までの所得、また、医療費（10万円を超えた分）等の控除等も同時に行います。前年度に納めすぎた税金を取り戻すこともできます。2020年度の納税額がこれによって定められます。なお、収入が給与のみで、各職場で年末調整を行っている場合は、確定申告の必要はありません。

忙しくて税務署へ行く時間が取れないという場合は、郵送やオンライン上で電子申告を行うという方法もあります。

確定申告説明会

日時	2020年2月5日(水)	午後4時30分から
場所	日本教育会館2階・東京教組事務所	
講師	浅川謙司さん(元再雇用職員部部長)	

再任用・再雇用職員非常勤教員部アンケート回答追加

勤務について困ったこと

非常勤の勤務条件や職務内容について、あまり理解されていない(特に再任用との違い)。再任用の方たちのように、学年や全体の仕事が振り分けられることがある。(今の職場では、だんだんわかってきてもらえて、分掌・副担の仕事ははずしてもらえるようになった。)

自由意見

- ・ボーナスの支給がなされるようになったのは、とてもありがたい。
 - ・次年度の職場がどこになるのか？(今は3月のはじめなので)もう少し早くわかるとよい。
 - ・持ち時間が11時間だが、奇数時間で、分担しにくいので、当然のように12時間となったしまう。上限11時間としてほしい。
- (M市中学校非常勤)

・同封のニュースでいろいろなことが分かりました。特に年休の繰り越しについて疑問だったのですが、扱いは今までと同じということで安心しました。この夏休みに、2度目の教員免許更新講習を終えました。なぜ教員だけ免許更新が必要なのか、しかも、3万円も費用がかかるのか、疑問をもちつつ講習を終えました。(S区小学校非常勤)

12月3日 八王子「天皇奉迎」に子どもたちは動員されなかった

水谷 辰夫 (顧問)

現上皇明仁夫妻が退位直前の2019年4月23日、八王子にある昭和天皇の墓「武蔵野陵(むさしののみささぎ)」に参拝する際、八王子市立小学校3校の児童約500名が「奉迎」するために動員され、沿道である甲州街道やそのバイパスで「日の丸の小旗をふる」ということがありました。これは、八王子市町会自治会連合会が中心となった「天皇皇后両陛下八王子奉迎会実行委員会」なる会が、各町会に「お迎えいただけるよう」との呼びかけ、それに応じる形で、教育委員会が各小学校長に要請して起きたことです。

八王子教育委員会は甲州街道やそのバイパスの沿道にある市内の小・中学校3校の学校長に、メールと電話での要請をしています。ただし、市教委は「情報提供しただけ」と言い逃れをし続けています。

この事実を1か月後に知った八王子の市民有志が、『こどもの思想・良心の自由』を奪うことになり「現代の皇民化教育だ」と声を挙げました。私自身も知ったのが6月上旬で、6月16日の市民集会のうちにこのことを集会参加者に訴え、問題をなげかけました。このことに気が付くのに時間がかかったのが事実です。

たしかに文科省は、4月23日の前日、22日に天皇退位と皇太子即位に際して通知を出し「国民こぞって祝意を表す意義について、児童生徒に理解させることが適当」として各学校に対して「配慮」を求めています。

1学期から夏休みを挟んで9月まで、市民が個人として市教委や当該小学校校長への電話をかけたり、有志数人での教職員向けの門前ビラ配りなどを通して、この問題への追及がなされてきました。

9月18日、市民十数名が集まり、「天皇奉迎に児童を動員することに反対する八王子市民の会」を発足させ、10月22日に行われる「大嘗祭」に向けて、八王子の子どもたちを動員をさせないために行動することを決定しました。具体的には、市教委・「奉迎委員会」、4月の「奉迎行動」をした小学校長たちへの申し入れを行うことなどです。その決定に沿って市民は、9月末から行動していきました。

話し合いの過程では担当者や代表の回答に疑問が多く、市教委の回答が変わったりしました。特に「奉迎実行委員会」と「町会自治連合会」の同一の代表である秋間氏は、「誰かから集まれと言われた。(中略)誰かが私を推薦して、分からないままに奉迎会実行委員会の代表になった。その後集まりは持っていない。」というあいまいな返答に終始する話し合いでした。

再度の話し合いの申し入れや市民からの問い合わせ、「週刊金曜日」の記事などから「奉迎委員会」代表の秋間氏は、「委員会は解散したので、話し合うことは必要はない。」と接触を断わってきました。それは、「誰かから」を明らかにしたくなかったからなのでしょう。そのことを私たちが知るようになりました。その答えは、実に簡単なことでした。現文科大臣萩生田光一氏の「永田町見聞録4月26日」というコラムから、この「天皇皇后両陛下奉迎八王子実行委員会」結成の顛末が明らかになったので

す。

コラムにはこうありました。

天皇皇后両陛下は、昭和天皇への退位のご報告の為、八王子の武蔵陵を訪問されました。警備の関係もあり、いつもはギリギリまで日程が公表されないのですが、今回は宮内庁から3週間ほど前に内示があり、町自連、安協、八王子まつりやいちょう祭りの実行委員会にも呼びかけ、「両陛下をお迎えする会」を組織し準備をしました。八王子インターから浅川大橋、追分から御陵まで、沿道にはかつてないほどの市民が出迎え、両陛下は長い道のりを窓を開け、手を振り続けてくださいました。日の丸の小旗4000本はたちまち無くなり、沿道の小学校、幼稚園、保育園の子供たちは手づくりの小旗で集まってくれました。

つまり、地元有力政治家の声に答えて地元町会などが動く、その有力政治家に「忖度」をした市の部署や教育委員会が「情報提供」という言葉で学校長に「忖度」させるため動く。学校長は「子供たちを沿道に並べて、立たせ『日の丸の小旗』を振らせた。」というのがこの4月の「奉迎行事」であったということがはっきり示されています。

11月、「大嘗祭」の実施時に合わせて、「奉迎行動」に参加させられた各校の教職員など関係者に向けて、私たちの会からのメッセージを配布しました。12月3日に予定されている新天皇夫妻の八王子の「武蔵野陵」参拝に合わせて、再び児童が動員されることがないようにとの思いを伝えるために、必要な行動でした。

11月13日朝勤務に向かう職員へのビラ渡しを3~4人ずつ3つの学校前で行い、「子供たちを動員することは、許されない事であり、児童の思想・良心の自由を侵害することである」との思いを届けました。

こうした市民の動きに、市教委と町会自治連合会も気圧されたのか、「12月3日は子どもたちへの動きは何もない」との感触を、電話などでのやり取りで得ていました。ただ、市内各町会への働きかけはあったようで、12月3日当日、沿道には祭りの山車や「笛・太鼓の音」が鳴り響く「歓迎」の演出がなされたそうです。しかし、子どもたちの動員は、やはりありません。沿道に小学生は並ばされはしなかったのです。

この日、「ひょっとして小学校児童が動員されるかも…」と監視する目的で沿道に待機していた私たちの会の仲間は、天皇制に異議を示す書き物を挙げたとたん、「公安警察による強制排除」を受け、腕や肩をつかまれ、車道から最も遠い場所まで運ばれるという暴行まがいの扱いをされてしまいました。しかも、その後、執拗な「公安刑事」の「つけ回し」が何人もの会員になされ、「帰宅する方向を変えたり、寄り道をしたりして、『つけ回し』がなくなるまで2~3時間をかけた。」との報告があったほどでした。

12月4日には、八王子市議会で、私たちと意見を共有する議員がこの問題を取り上げ、市教委・教育長・市協同推進課等に質問がなされました。そこで明らかにされたことは、この問題に大きく関わっていることが分かっていた萩生田光一現文科大臣が、「奉迎委員会の立ち上げのさい同席し」ていたこと、氏の思いを「忖度」しての「奉迎実行委員会設立」であったことを伺い知ることができたのです。